

環境活動レポート2014年度版

2014.05.01～2015.04.30

ver.1.0

2015年6月15日

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

会社概要

- ◆社名 株式会社長門屋商店
- ◆代表者 代表取締役 横溝純一
- ◆創業 1947年
- ◆設立 1953年
- ◆資本金 1,000万円
- ◆社員数 17名(就業役員を含む)
- ◆業務内容 紙製品の製造卸・小売業・賃貸業

◆事業所

- 本社 東京都港区麻布十番1-5-25
- 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
- 文具小売部 東京都港区麻布十番1-5-25 1F

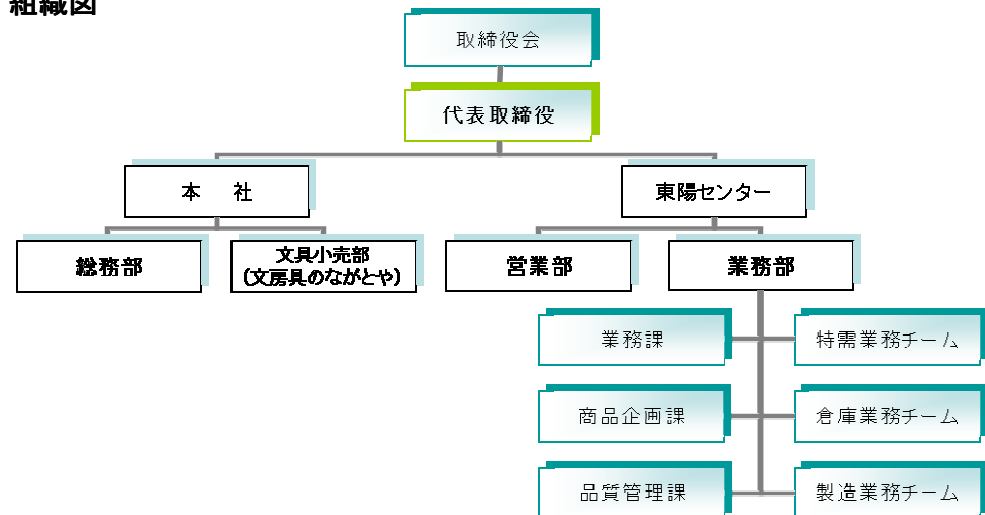
- ◆環境管理責任者 東陽センター長 中島 淳

◆事業規模

	2012年度	2013年度	2014年度
売上高(万円)	58,000	58,600	61,500

決算期末(6月)売上高

組織図



主力商品



プリンタ用紙



祝儀・和文具

環境方針

基本理念

当社は、紙加工品の商社として「環境にやさしい商品づくり」をメインテーマに、環境に配慮した製品の開発・拡販を積極的に推進し、環境配慮企業として循環型社会形成に寄与する企業活動を展開して参ります。また、日常推進事項として以下に掲げる項目を継続的な環境配慮活動として取り組んで参ります。

活動方針

環境にやさしい商品づくり

- ・環境に配慮した新商品を積極的に開発して参ります。
- ・商品の包装や資材などを見直し環境負荷軽減に努めます。
- ・商品の売り上げの一部を森林保護活動の為に役立てます。
- ・効率的な在庫管理をし、入在庫などに関わる物流エネルギーの削減に努めます。

省エネルギー

- ・資源やエネルギーの消費による環境負荷を認識し、限りある資源の保全に努めます。

廃棄物削減と汚染防止

- ・資源固有の特性を有効に活用し、廃棄物の抑制に取り組み環境汚染の防止に努めます。

関連法規制順守

- ・企業活動に関係する環境関連法規・条例・規制等を順守します。

グリーン購入

- ・日常業務において使用する社用品にはグリーン製品を積極的に使用します。

環境活動に関する継続的持続

- ・環境負荷に関する内容をデータ管理し、目標を設定し継続的に持続達成に努めます。

環境活動の公表

- ・環境活動の計画及び実施状況を「環境活動レポート」としてとりまとめ公表致します。

2006年11月01日制定

2010年05月01日改定 (ver2.5)

株式会社 長門屋商店

代表取締役 横溝純一

環境目標および達成状況一覧

実施事項	2013年度実績	2014年度実績	2014年度環境目標	目標達成状況
①-A 電力消費量	53,029kWh	<u>47,572kWh</u> 前年対比 -10.3%	<u>50,000kWh</u> (対2013年度-5.7%)	目標対比 -4.9% ○
①-B ガソリン給油量	8,992リットル	<u>8,417リットル</u> 前年対比 -6.4%	<u>8,700リットル</u> (対2013年度-3.2%)	目標対比 -3.3% ○
①排出CO2削減	44,885 kg	<u>40,820 kg</u> 前年対比 -9.1%	<u>43,000 kg</u> (対2013年度-4.1%)	目標対比 -5.1% ○
② 水使用量	205m3	<u>207m3</u> 前年対比 +1.0%	<u>203m3</u> (対2013年度-0.9%)	目標対比 +2.0% ×
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ（熱回収/埋立）	950.7kg	<u>661.7kg</u> 前年対比 -30.4%	<u>900.0kg</u> (対2013年度-5.3%)	目標対比 -26.5% ○
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール（再生）	3162.3kg	<u>4609.3kg</u> 前年対比 +45.8%	把握	目標対比
④ 環境対応商品売上高	27,081万円	<u>26,042万円</u> 前年対比 -3.8%	<u>28,000万円</u> (対2013年度3.3%)	目標対比 -7.0% ×

○は設定目標達成 △は設定目標に及ばずも前年実績より良化 ×は目標・前年実績ともクリアできず

①-A 電力消費量の削減

本社ビル	2012年度	2013年度	2014年度
購入電力量(1)	35,114kWh	33,968kWh	30,444kWh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	1,661kWh	318kWh	628kWh
実質電力消費量 (1)+(2)	36,775kWh	34,286kWh	31,072kWh
前年比		93.23%	90.63%

東陽センター	2012年度	2013年度	2014年度
購入電力量(1)	12,555kWh	11,763kWh	10,398kWh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	7,528kWh	6,980kWh	6,102kWh
実質電力消費量 (1)+(2)	20,083kWh	18,743kWh	16,500kWh
前年比		93.33%	88.03%

全社合計	2012年度	2013年度	2014年度
購入電力量(1)	47,669kWh	45,731kWh	40,842kWh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	9,189kWh	7,298kWh	6,730kWh
実質電力消費量 (1)+(2)	56,858kWh	53,029kWh	47,572kWh
前年比		93.27%	89.71%



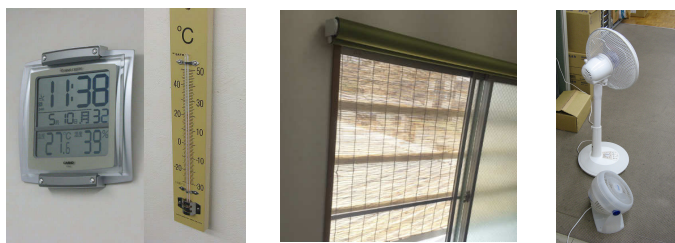
前年対比 -10.3%

太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

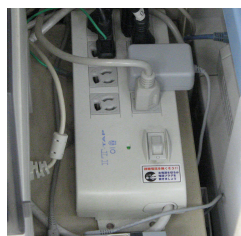
①-A 電力消費量の削減



↑ LED電球およびLED蛍光灯



↑ 温度管理へのさまざまな工夫



←OAタップで
待機電流
OFF

新型サー
キュレータ→



本社 ソーラー設備 9.8kw



東陽センター ソーラー設備 10kw

■新規取組

- ◆2014年7月に東陽センターのエアコン2台を最新型の超省エネエアコンにしました。
- ◆DCモーターの低電力のサーキュレータを2台購入
- ◆倉庫の一部の蛍光灯をLED化で余ったHf管の蛍光灯に交換した。

■継続取組

- エアコンとサーキュレータ・扇風機の併用等
- 事務所にすだれの設置
- 温度計を使用して室温管理
- 個別の消灯
- OAタップによる待機電流OFF

■評価・次年度へ

2014年度の東京地方は前年に比較すると、夏場の気温は若干低め、冬場はかなり冷え込んだ傾向でした。暑さが控えめだったことに新型エアコンの導入で、大きなアドバンテージを得ることが出来ました。エアコン導入以外の部分でも日頃の積み重ねが功を奏し、昨年対比で10%の削減を致しました。機器の交換はもちろんベストですが、日頃の心掛けこそが最も大きな結果につながります。次年度も削減できるよう、変わらず積み上げていきたいと思えます。

①-B ガソリン給油量の削減



↑ ダッシュボードに表示

	2012年度	2013年度	2014年度
給油量	9,054L	8,992L	8,417L
前年比		99.32%	93.61%

前年対比 -6.4%

■新規取組

昨年から車両の入替はない。
ドライビングレコーダーを各車に取り付けた。

■取組

- 車内に「低燃費運転の心がけ」を貼り意識向上
(①アクセルワーク50%以下②アイドリングストップ③エアコンは控え目④タイヤの空気圧チェック)
- 工場や仕入先などからの直送を増やし積載減

■評価・次年度へ

車両入替は無かったが、昨年入替えた車両を通年利用して若干減少に効果があった。またドライビングレコーダーを付けたが、これによっていつも見られているような意識が生じ、無理な運転をしなくなったとの声がある。運転意識の改善もプラスに働いているかと思う。結果6%の削減になりました。

次年度は車両入れ替えがあるので、エコ車を導入予定である。
取り組みは引き続き継続していきたい。

①Co2排出量削減



CO2排出係数	2012年度	2013年度	2014年度
購入電力 (環境省HP/東京電力)	0.463	0.525	0.521
ガソリン (EA21ガイドライン)	2.32166	2.32166	2.32166

全社合計	2012年度	2013年度	2014年度
本社ビル 排出CO2	16,258kg	17,833kg	15,861kg
購入電力 購入量	35,114kWh	33,968kWh	30,444kWh
東陽センター 排出CO2	5,813kg	6,176kg	5,417kg
購入電力 購入量	12,555kWh	11,763kWh	10,398kWh
全社ガソリン 排出CO2	21,020kg	20,876kg	19,541kg
給油量 購入量	9,054L	8,992L	8417L
排出CO2合計	43,091kg	44,885kg	40,820kg
前年比		104.16%	90.94%

オフセット計算	2014年度
本社ビル 総発電量	10,900kWh
東陽センター 総発電量	11,727kWh
発電量合計	22,627kWh

購入電力での排出量

⇒ **11,789kg 相当**

購入分より差引 ↓

太陽光発電によるオフセット後の排出量 29,031kg

なお、昨年のオフセット後の排出量は 32,490kg でした。

② 水使用量削減



本社ビル	2012年度	2013年度	2014年度
上下水道	37m3	41m3	40m3
前年比		110.81%	97.56%

東陽センター	2012年度	2013年度	2014年度
上下水道	170m3	164m3	167m3
前年比		96.47%	101.83%

全社合計	2012年度	2013年度	2014年度
上下水道	207m3	205m3	207m3
前年比		99.03%	100.98%

■設備導入

◆特になし

■取組

◆雨水を貯水して清掃や洗車や植木の水やりに使用しています。

■評価・次年度へ

歯磨き時にコップに水を溜めて使ったり、水の流量を多少絞ったりなどの施策は思いつきますが、従業員の増減や使用頻度に左右されるため、著しい削減は難しい。引き続き変わらず実施に努めます。

前年対比 +1.0%

③ 廃棄物の排出量削減



↑ 合い紙の活用



↑ ダンボール再利用



↑ 計量用のスケール



↑ 東陽センターでは3種の分別ゴミ箱を用意しています。

可燃ごみ・不燃ごみ（熱回収/埋立）

熱回収/埋立	2012年度	2013年度	2014年度
本社ビル		111.8kg	118.1kg
東陽センター	1003.0kg	838.9kg	543.6kg
合計	1003.0kg	950.7kg	661.7kg
前年比			69.60%

■新規取組

- 廃棄物業者の全社統一
- 東陽センターの廃棄物の細分化
⇒「可燃ごみ」を「可燃ごみ」「ミックスペーパー」「古紙」に分別

■継続取組

- 合い紙の社内ドキュメントへ活用
- ダンボールの再利用
- 古紙の分類回収
- ペーパーレスの促進
- ペットボトルキャップの収集

プラ・古紙・ダンボール（再生）

再生	2012年度	2013年度	2014年度
本社ビル		1680.0kg	1850.0kg
東陽センター		1482.3kg	2759.3kg
合計		3162.3kg	4609.3kg
前年比			把握

■評価・次年度へ

廃棄物業者が本社ビルと東陽センターは別の業者でしたが統一しました。また2014年度から計量の分類を「熱回収/埋立」と「再生」の2種類の形に変えたので、「再生」の廃棄物の把握に努めました。さらに東陽センターでは、可燃ごみの細分化を行い、かなりの量を「熱回収/埋立」から「再生」の廃棄物に移行を実現しました。新たな形で通年運用致しましたので、2015年度はこれを基準とした目標を設定致します。

④ 環境対応商品の売上高アップ ※自社ブランド製品の卸販売高



売上の一部を(公財)オイスカへ寄付している
「カラーペーパー」シリーズ



グリーン購入法適合用紙
「環境紙」



売上の一部をWWFのサンゴ礁保全へ
寄付している「美彩紙」

■対象商品

- 売上の一部を環境保全団体に寄付している。
- 原料に廃材や再生材を使用している。
- 非木材原料を使用している。

■評価・次年度へ

全社売上が伸びたにもかかわらず、数字を落としました。
大口取引先の取扱方針などが原因で落としました。状況は把握できておりますが厳しい情勢です。
2014年度は人気の「美彩紙」シリーズで新色を増やしまして、バリエーションが拡充しました。 少しずつですが環境対応商品を増やし、数字に繋げていければと思っております。

	2012年度	2013年度	2014年度
環境対応商品	25,591万円	27,081万円	26,042万円
前年比		105.82%	96.16%

当社基準による自社ブランドでの売上高です。

前年対比 -3.8%

環境活動・啓発活動



オイスカ「子供の森」計画支援

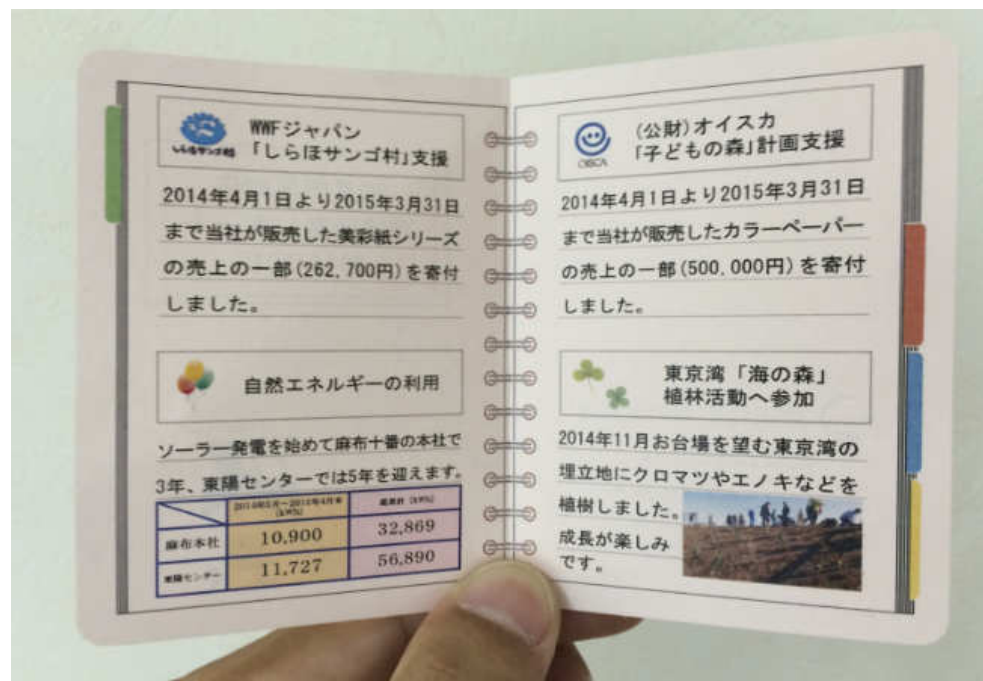
「子供の森」計画は子どもたちが自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという学校単位の新しい森づくり運動です。弊社製品の売上の一部を公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画に寄付しております。

WWF「しらほサンゴ村」支援

WWFジャパンは、沖縄県石垣島白保にサンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」を設立し、地元の白保の人たちとともに、サンゴ礁の調査や保全活動、持続的な海の資源利用に取り組んでいます。弊社では「OAマルチケット紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付しております。



環境活動・啓発活動



環境活動ニュースの配布

年に一回、環境に対する取り組み活動をまとめた「環境活動ニュース」を発行し、得意先様などに配布しております。



東京湾「海の森」植林活動

2020年東京オリンピックの競技予定地の「海の森」、毎年恒例の植樹ボランティアに有志社員とその家族とともに参加いたしました。今年は5年かけて育成した苗木10数本をこの地に植えました。無事育ってくれることを祈るばかりです。

その他

グリーン購入につきまして

文具販売業を営んでいるため、汚れによる販売不可商品やサンプル品なども日常積極的に使用しており、文具通販等からの購入がなく事務用品のグリーン購入は数値集計が難しく行なっておりません。

以下の通りに意識的にグリーン購入を実施しております。

■OA機器類や電化製品などの購入の際には、右記の写真のように「エコマーク」や「Energy Star」が付いたものなどを積極購入

■印刷封筒類は古紙配合のものを使用

■コピー用紙はシーンによって、再生PPCを使用

■モノクロレーザープリンタには、再生トナー、再生ドラムを使用



環境関連法規

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	■環境への負荷の低減の取組 ■自動車公害対策(アイドリングストップ)	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	■廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理	○	遵守
江東区環境基本条例	■第7条(事業者の責務)ほか	○	遵守
容器包装リサイクル法	■紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■商品包装への識別マーク表示 ■上記の包装資材の再商品化義務	○	遵守
家庭用品品質表示法	■障子紙が該当	○	遵守
下水道法	■日常使用の範囲	○	遵守
労働安全衛生規則	■電動フォークリフトの法定検査および自主検査	○	遵守
自動車リサイクル法	■リース車両につき、リース会社に委託	○	遵守
家電リサイクル法	■指定産廃業者に廃棄委託・支払	○	遵守

2015年5月現在

環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。また訴訟についても事例がありません。
関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

2015年度～2017年度の設定 中期環境目標

実施事項	2014年度実績	2015年度目標	3カ年での中期目標
①-A 電力消費量	47,572kwh	<u>45,200kwh</u> 前年対比 -5.0%	2016年度 <u>43,000kwh</u> (対2014年度-9.6%) 2017年度 <u>40,500kwh</u> (対2014年度-14.8%)
①-B ガソリン給油量	8,417リットル	<u>8,000リットル</u> 前年対比 -5.0%	2016年度 <u>7,600リットル</u> (対2014年度-9.7%) 2017年度 <u>7,200リットル</u> (対2014年度-14.4%)
①排出CO2削減	40,820 kg	<u>38,800 kg</u> 前年対比 -4.9%	2016年度 <u>37,000 kg</u> (対2014年度-9.3%) 2017年度 <u>35,000 kg</u> (対2014年度-14.2%)
② 水使用量	207m3	<u>205m3</u> 前年対比 -1.0%	2016年度 <u>203m3</u> (対2014年度-1.9%) 2017年度 <u>201m3</u> (対2014年度-2.8%)
③-A 廃棄物の排出量 可燃ごみ・不燃ごみ (熱回収/埋立)	661.7kg	<u>630.0kg</u> 前年対比 -4.8%	2016年度 <u>600.0kg</u> (対2014年度-9.3%) 2017年度 <u>565.0kg</u> (対2014年度-14.6%)
③-B 廃棄物の排出量 プラ・古紙・ダンボール (再生)	4609.3kg	<u>4380.0kg</u> 前年対比 -5.0%	2016年度 <u>4180.0kg</u> (対2014年度-9.3%) 2017年度 <u>3950.0kg</u> (対2014年度-14.3%)
④ 環境対応商品売上高	26,042万円	<u>27,000万円</u> 前年対比 +3.7%	2016年度 <u>28,000万円</u> (対2014年度+7.5%) 2017年度 <u>29,000万円</u> (対2014年度+11.3%)
⑤グリーン購入比率の拡大	消耗品類および新規OA機器導入時には、各カタログにおいて「グリーンマーク」の付いた商品を積極的に使用すること		
⑥従業員の環境意識向上	緑化推進・クールビズ・健康増進		

環境管理責任者の総評 および 代表者の総括

■環境管理責任者の総評

当年度から削減取り組みを部署ごとに課すことにし、これによって毎月各部署のミーティング内で盛んにディスカッションが行われ、電気・ガソリン・廃棄物は順調な取り組みだった。

特に廃棄物は全社同じ業者に統一されました。業務が異なるので同じ分別方法にはできていませんが、概ね同一条件下となり数量も把握できました。

次年度は目標を設定し削減を目指します。

社の売り上げの進捗に併せて伸びてきた、環境対応商品は今回始めて減少に転じました。原因は検証できているが、本業での貢献ができなかったことは辛い。

従来少しでも世の中のプラスになればと思い、社員が飲んだペットボトル飲料のキャップを「エコキャップ推進協会」へ提供してきたが、ポリオワクチンへの取り組みが報道で取り上げられ、少々活動が不透明と感じたため、今回のレポートからは削除しました。キャップの回収は引き続き継続していきます。

最後に年度末の繁忙期が過ぎても、私の方は業務上忙しい期間が続きます。本業に時間を割くため新年度の目標設定、集計書式用意、レポート作成はひと月以上先延ばしになってしまいました。日常から削減努力をしている仲間達に対し、この場を借りて謝罪したいと思います。



2015年6月18日

中島淳

■代表者による総括

①当該年度の総括

当該年度は、「全社的な廃棄物排出量の把握」をメインテーマに環境活動に取り組んで参りました。麻布本社と東陽センターとで同一の産業廃棄物処理業者にその処理を委託したことで、全社共通のルールで分類・計量を行えるようになり大幅に改善することが出来ました。分類については細分化にトライし、現在では最大8分類まで行なっております。年度集計結果を受けて特に再生可能な廃棄物を細分化することの重要性を認識致しました。今後は数値目標を設定し集計管理に反映してまいりたいと考えております。これまで環境管理責任者の負担が大変大きかったため、環境活動体制の見直しを行ないました。当社では全社エコミーティングを3ヶ月に一度行なっておりますが、各担当者より進捗状況を報告して貰い、短いスパンで達成状況を確認し、情報を共有化するように心がけています。これにより各担当者の責任意識も高まり、環境管理責任者への負担軽減にも繋がってきているかと感じております。

電気消費量の削減については、消費量・料金共に削減を実現することが出来ました。電気料金値上げが実施された年度で社員たちの知恵と努力に対しこの場を借りて感謝を伝えたいと思います。

②次年度の見直しや改善指示

「環境方針」「環境活動計画」「環境経営」については、特にこれまでと変わりありませんが、「環境にやさしい商品づくり」の中の「森林保護活動支援」に加え、「海洋保全活動支援」を加えたい考えですので環境管理責任者と協議を行います。

「環境目標」については、廃棄物の排出量の削減目標を新たに追加していきたいと考えております。また昨年目標を達成出来なかった「環境対応商品の売上高アップ」については、営業及び全体ミーティングなどを通じて社員への意識付けを図るつもりです。

「電力消費量の削減」のため麻布本社ビル共有部照明設備の見直しが次の施策と考えています。費用対効果の観点から今のところ実行できておりませんが、LED非常灯へ切り替えを検討しています。



2015年6月19日

代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社 長門屋商店

<http://www.nagatoya.com>

編集者: 長門屋商店 業務部 中島淳

〒135-0016 東京都江東区東陽1-3-3

TEL 03-5690-7131

FAX 03-5690-8010

nakajima@nagatoya.com